

ソラマメ (マメ科)

適期に収穫しないと食味が落ちやすい。
マメ類の中ではタンパク質が多い方。

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地栽培					収穫					播種	定植		

1) 適地

乾燥しやすい場所では生育量が低下しやすいため、やや粘土質の水田地帯が適します。比較的涼やかな気候を好み、幼苗期は低温に耐えることができますが、大きくなると低温に弱くなります。

2) 品種

船岡一寸、三連、陵西一寸など

3) 作り方

【圃場の準備】連作障害が出やすいので、7～8年作付けしていない場所を選びます。風の強い場所では、圃場の周囲に防風ネットを張ります。定植の1か月前に1m²当たり堆肥1kg、苦土石灰100g、ようりん30gを施し、深く耕します。定植の1週間前に緩効性肥料を、1m²当たり50g施して幅150cmの畝を立てます。雑草防止のため、マルチを張ってもよいでしょう。

【播種と育苗】9cmのポットに市販の培土を入れ、種子の「おはぐろ」を下にし、種子の先端がわずかに見える程度に差し込みます。播種後は十分に灌水し、本葉2枚程度まで育苗します。

【定植】畝の中央部に、株間40cmの1条植えにし、定植後は十分灌水します。寒さが厳しく、強い北風に当たる場所では、防寒対策として北側に防風のワラを立てます。

【整枝】定植後、主枝が生育した時点で5～6枚で摘芯し、側枝の発生を促します。側枝の生育が旺盛になり、開花が始まる頃を見計らって整枝します。節間が詰まった太い枝を6～7本程度残し、徒長した枝や後から発生した短い枝を除去します。

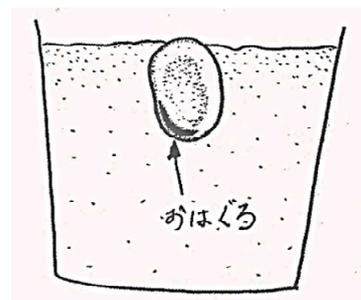
【追肥】追肥は3月中旬から下旬頃に、1m²当たり高度化成肥料20gを施用します。生育状況により、1回目の2週間後に2回目の追肥を同量与えます。1回目の追肥後は、倒伏防止を兼ねて株元に土寄せします。

4) 収穫

莢が垂れ下がり、背筋が黒褐色になって莢に光沢が出、マメのヘソがやや黄色になってきた頃が収穫の適期です。

5) 病虫害防除

害虫ではアブラムシ類の発生が多く、病気では立枯病、赤色斑点病が発生するので、早めに防除します。



播種方法